

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第2回市民評価委員会(6月1日)開催分）

《ヒアリング対象事業(5事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
3 子ども	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。(4年以内)	外部評価 C+		外部評価 b		外部評価 b	
		保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)	外部評価 C+		外部評価 b		外部評価 b	
	24-3 放課後児童クラブ	外部評価 a		外部評価 c		外部評価 c		
4 高齢者	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)		外部評価 C		外部評価 C+		外部評価 C	
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)	外部評価 C		外部評価 C		外部評価 b	
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)	外部評価 b-		外部評価 C		外部評価 C	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
子ども	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。	4年以内	・平成24年度末までに、すべての市立小・中・高等学校で「さいたま土曜チャレンジスクール(どちゃれ)」を実施します。 ・平成24年度末までに、すべての市立小・中・特別支援学校に「スクールサポートネットワーク(SSN)」を構築します。	①さいたま土曜チャレンジスクール実施校80校 ②スクールサポートネットワークの構築80校	①さいたま土曜チャレンジスクールを80校で実施した。 ②スクールサポートネットワークを80校で構築した。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗と考える。
河西委員	b	ヒアリングを期待しています。とても必要なことだとしても、現場感よくわかりません。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。SSNの実態について説明がほしい。教職員の関わりは？
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	回数、実施校については目標通り。運営体制上の課題に取り組まれているか。
栗原委員	b		福崎委員	b+	ネットワークの構築を重視している点。
須藤委員	b	少ない子供を地域で育てるという発想であり、参加者も多く、今後の内容充実を期待。なお、義務教育外の市立高校を含める事の是非は検討が必要。	星野委員	b	「土曜日寺子屋」を実施してどのような内容を実施しているのかが明確でない。
高木委員	b	工程表通り進捗。	町田委員	b	実施目標は達成しているため予定どおりと評価させていただきます。HPでの目的に示された、「子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかにたくましく育つ環境づくり」がチャレンジスクールで実現されているか、創意工夫した運営がなされているかをヒアリングさせていただき、加点・減点評価として修正させていただければと考えています。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。チャレンジスクールの実情を知るために、スタッフサイドへのアンケートも必要だと考える。	三浦委員	b	実施校は目標通り拡充している。ただし、地域の声を聴くと、開設済みの小学校で定員オーバーとなっている実態があるようなので、受け入れ児童数の拡充も今後の課題と思われる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業No.24-3（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	24-3	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。 (放課後児童クラブ)	4年 以内	・待機児童ゼロを目指し、平成24年度末までに、民設放課後児童クラブの整備により、受入可能児童数を1,440人増やします。	①受入れ可能児童数360人の増員 ②翌年度の受入れ可能児童数360人増に向けた準備 ③公民保護者負担の平準化の検討 ④空き教室利用についての検討	①★受入れ可能児童数309人の増員 ②翌年度の受入れ可能児童数360人増に向けた準備 ③△公設クラブ指導料の見直し ④野田小学校の余裕教室活用による新規開設	C+	・平成23年度の受入れ可能児童数の目標を達成していないため、「c」と判断。公民保護者負担の平準化を図るため、公設指導料の適正化を決定することができたため加点評価とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	c	目標未達のため。
河西委員	b	空き教室の利用は評価。放課後や土曜日と共通のプランはないか。
木島委員	d-	二年連続での未達。単年度の受け入れ可能児童数未達に加え、待機児童数が増加している現状からみると、この事業が推進できていないと思われるため「d」評価。本来は単年度目標値をプラン策定時より引き上げて取り組むべき課題と考えられる。さらに、昨年評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。
栗原委員	c+	
須藤委員	c+	子どもの健全な成長と母親の社会参画、労働市場への参入をサポートする事業として重要度大。コスト面を考慮しつつも、予算の傾斜配分や人材（シルバー層、主婦）の有効活用により必達すべし。
高木委員	c+	受入れ可能児童数309人の増員は目標を達成していないため、「c」と判断。公設クラブ指導料の見直し、野田小学校の余裕教室活用による新規開設のプラス評価で加点評価した。
高島委員	c	目標に達していないので進捗度は「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	c	残念ながら受け入れ可能児童数の増員は目標に大きく届かず。公設クラブ指導料の見直しは8,500円/年という目標水準が市として設定された。ただし、実施を担保する制度は構築（改正）されていないため、検討の終了段階と判断する。
橋本委員	c	停滞感があります。公設指導料の適正化の決定は、当然の行政行為。加点評価までは届かない。
廣瀬委員	c+	内部評価と同じ判断
福崎委員	c	どのような見直しをしたのか報告がないので、評価できない。
星野委員	c+	今後も待機児童の増加が見込まれるので数値目標の見直しも検討して下さい。
町田委員	c	予定数360人に対して309人であったことより目標と比べて遅れていると評価します。
三浦委員	c	チャレンジスクール、認可保育所と同様に、きちんと目標に対応する予算や体制づくりに取り組めば、達成できるのではないかと。量的目標が未達になっている原因は何なのか、分析と解決策の提示をお願いしたい。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業No.33-1（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	33-1	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。 (高齢者サロン)	4年 以内	・平成24年度末までに、市内全47地区社会福祉協議会で高齢者サロンを実施します。 ・平成24年度末までに、老人福祉センターを2か所増やし、全10区に整備します。	①全47地区社会福祉協議会のうち43地区で実施 ②平成24年5月に開館する老人福祉センター(武蔵浦和荘)の開設準備をする	①★地区社協内の43地区のうち31地区で高齢者サロン開催 ②南区内の老人福祉センター(武蔵浦和荘)開設準備	C	・市社協の補助金を活用した地区社協での高齢者サロンは、開催地区数を拡大することができなかったため、「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	若干少なかったが、方向性は良とした。
河西委員	b	地域の学校の空き教室利用はいいことだと思います。すぐに実行できそうな事業に感じますが、「c」評価となる理由はなんでしょうか。
木島委員	C-	サロン開催地区数が未達。(実績31地区/目標43地区=72%) 二年連続での未達であり、昨年評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。
栗原委員	C	
須藤委員	C	費用対効果の計測(ex:1か月の延べ利用者数と家賃・人件費等のコスト) 土・日は一般市民のサークル・団体等利用者にも一部開放し、利便性と稼働率アップを図る。
高木委員	C	地区社協内の43地区のうち31地区で高齢者サロン開催で、目標値を下回ったため。
高島委員	C	が目標に達していないので進捗度はCと判断。不達の理由についての分析をし、24年度につなげてほしい。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	C-	浦和区に仲本荘が開設されたが、残念ながら武蔵浦和荘は火災により開設準備が進まず。サロン実施は前年比+1で、目標の1/13にとどまってしまった。
橋本委員	C	H22年→H23年事業実施に関して停滞感があります。
廣瀬委員	C	開催地区数の拡大ができていない
福崎委員	C-	サロン開催数を増やす工夫をもっと増やして、報告してほしい。
星野委員	C	なぜ高齢者サロンを開催できなかったのか十分な検証をすべきである。
町田委員	d	2カ年連続してC評価であったにもかかわらず3年目にあっても予定数を大幅に少ない開設数により低い評価と判断。 公民館・地域施設・学校空き教室など既存施設の有効活用を図り、既存ストックマネジメントとの調整もしながら有効な税金使用とした施策としていただきたい。 ※平成23年度予算の2億の使用用途について伺いたい。
三浦委員	C-	平成23年度の目標未達にとどまらず、平成22年度の39地区を下回る31地区の高齢者サロン開催となった。 高齢者サロンは地区ごとに多様な取り組みがなされており、既存のサロンの現状を把握して今後の推進策を検討すべきと考える。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業No.34（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。	4年以内	・平成24年度末までに、シルバー人材センターの会員数を6,300人に、年間就業率を90%にします。 ・平成24年度末までに、シルバーバンクのマッチング数を年間300件以上にします。	①シルバー人材センターの累計会員数6,000人 ②シルバーバンクのマッチング数250件 ③シニア生き方発見セミナーの開催	①★シルバー人材センターの累計会員数5,168人 ②☆シルバーバンクマッチング数341件 ③シニア生き方発見セミナーを開催(3月:参加者90人)	b	経済動向による就業先の減少や適正就労の見直し等の影響によりシルバー人材センターの累計会員数は減少したが、シルバーバンクはマッチング数目標を上回りましたので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	概ね方向性は良とした。
河西委員	b	高齢の方々にとって必要とされること役に立つことは大変有意義だとも思います。実際の実働状況が知りたいです。広がり増えていけばいいとも思います。
木島委員	a	マッチング数が目標より増加(実績341件/目標250件=136%)していることを評価。 会員数減については不可抗力の部分が多くあり、かつマッチング数が増加することがこのプランの本質と考える。
栗原委員	b	
須藤委員	b	就業率アップが本制度の活性化に直結する。 市の外郭団体等各種団体の作業受託や民間企業への雇用開拓を積極化すべし。
高木委員	b	シルバー人材センターの累計会員数5,168人で目標を下回ったが、シルバーバンクマッチング数341件で目標を上回ったため。
高島委員	b	内部評価と同じ理由により進捗度「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	内部評価の判定はおおむね妥当と考える。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b	シルバー人材センターについては内容面に及んでの見直しが必要なのではないか。
福崎委員	c+	マッチング数が多い点。
星野委員	b-	引き続きシルバー人材センターの会員増を目指して取り組みを再考して下さい。
町田委員	c	会員数登録の予定目標数を大きく下回っているため、「c」ランクと評価。 PRなどの周知活動によりマッチング数は増加するが、労働を提供している過程での、クライアントとのフォロー態勢が必要な場合も多いと感じた。登録者の「やりがい」「自己肯定感」をどのように抱いてもらうかはセンター職員や組織の役割だと感じる。マッチング数にあってもリピーター数のリサーチなども必要と感じる。 ※平成23年度予算の2億の使用用途をしりたし。
三浦委員	c+	シルバー人材センターの累計会員数が1,000人以上目標を下回り、前年度比較でも減少している。シルバーバンクのマッチング成功は90件増だが、目標をカバーしたとは見なせない。 シルバー人材センターのあり方の抜本的な見直しが必要ではないか。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第2回委員会：6月1日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	35	シニアユニバーシティを充実します。	4年 以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、定員を1割増やし1,245人とします。 平成23年度末までに、卒業生の活動拠点となる施設を整備します。 平成24年度末までに、校友会活動に参加する卒業生を9割以上とします。 大学院卒業生のうち平成21年度は1割の50人を、22年度以降は2割の100人をシルバーバンクへ登録します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定員60名拡大 ②北大宮校(大学)の設置、北大宮校(大学院)設置準備 ③卒業生の活動拠点の整備 ④大学院卒業生のシルバーバンクへの登録100名/年 	<ul style="list-style-type: none"> ①定員60名拡大 ②北大宮校(大学)の設置、北大宮校(大学院)の設置準備、地域活動講座で福祉専修科卒業生による発表実施 ③整備に向けて備品の準備 ④地域活動講座の際にシルバーバンクの紹介・登録受付実施★大学院卒業生の登録者5名(ただし大学卒業生の登録者16名) 	C	①②③の目標は達成したが、④の目標(平成23年度の大学院卒業生のうちシルバーバンクへの登録者100名)が5名と著しく低かったため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	登録が少なかった事は社会環境が変化したと感じます。	長野委員	C	シルバーバンクへの登録は目標を大きく下回ってしまった。
河西委員	b	必要とされ役に立つことと同様に興味を持つこと、学ぶことも生命力の向上につながると思います。もっともっと学びの場を広く自由に提供できればいいのと思います。高齢者と若者、現場の様子をみて感じることで、お互いがもっと歩みよれるのではないのでしょうか。	橋本委員	d-	計画/目標と結果のこれだけの不一致があり、未達評価。来年度の見込みもかなり厳しい印象。計画/目標の見直し/変更が必須。
木島委員	C-	シルバーバンク登録が未達。(実績5名/目標100名=5%) 二年連続での未達であり、昨年評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	C-	施策のそもそもの想定と現実が適合していないのではないか。根本から見直す必要があるのではないか。
栗原委員	C-	制度の意義が問われる結果。根本的な見直しが必要？	福崎委員	C-	登録者数を増やす工夫を、もっと具体的に増やして報告してほしい。
須藤委員	C	大学院設置のコンセプトが曖昧。(一般教養の深堀りor社会参画支援)シルバーバンクへの登録を期待するのであれば、募集要項や講義内容を見直す必要あり。シニアユニバーシティの費用対効果如何(特に所要コスト)多少の学費を徴収しても良いのでは(ex:1講座100円)	星野委員	C	シルバーバンクへの登録者を増やす為の具体的な対策が急務だと考えます。
高木委員	C	大学院卒業生のシルバーバンクへの登録が5名であり、目標を大きく下回ったため。シニアの方々の興味や需要に対して、目標値が高かったのではないかと考える。なぜシニアの方々が興味を示さないのかアンケートや意見を聞いて状況を把握した方が良いと思う。	町田委員	d	2カ年連続してシルバーバンクへの登録が少なかったことで「d」評価とする。
高島委員	C	内部評価と同じ理由により進捗度「c」と判断。 シルバーバンクへの登録者数が目標を著しく下回った理由は？	三浦委員	C-	シニアユニバーシティで学ぶ高齢者が、地域活動やボランティア活動に向かうことが望まれているのに、大学院にまで進んでも卒業後のシルバーバンクへの登録がわずか5名にとどまっている。 大学院進学と修了の条件に、シルバーバンクへの登録を必須としてはどうか。実際に活動するかどうかは、その後の個人の判断であろう。

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第2回市民評価委員会(6月1日)開催分）

《ヒアリング対象外事業(22事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度		
3 子ども	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)	外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		
	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)								
	18-1	読み・書き・そろばんプロジェクト	外部評価 c 内部評価 c		外部評価 b- 内部評価 b-		外部評価 b 内部評価 b		
	18-2	なわとび・逆上がりプロジェクト	外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		
	18-3	あいさつ・礼儀	外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		
	18-4	早寝・早起き・朝ごはん	外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		
19	「放課後子ども教室」を倍増します。(2年以内)	外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b		外部評価 b 内部評価 b			

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度	
3 子ども	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)					
	20-1	児童相談所の充実	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	20-2	保健所の充実	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(4年以内)					
	23-1	1日保育士体験	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	23-2	子育て支援センターの活用	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	23-3	ワークライフバランスの認知度向上	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	23-4	親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	

宣言・分野	No.	増進プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度	
3 子ども	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)					
	24-1	認可保育所	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	24-2	ナーサリールーム・家庭保育室	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。(4年以内)					
	25-1	小児救急	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。(4年以内)	外部評価		外部評価	
			内部評価		内部評価	
27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。(4年以内)	外部評価		外部評価		
		内部評価		内部評価		
28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)	外部評価		外部評価		
		内部評価		内部評価		
29	学校教育における食育を推進します。(4年以内)	外部評価		外部評価		
		内部評価		内部評価		

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度																																															
			外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	外部評価	内部評価																																														
3 子ども	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)	外部評価	<table border="1"> <tr><th>達成度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>b+</td><td>5</td></tr> <tr><td>b</td><td>8</td></tr> <tr><td>b-</td><td>0</td></tr> <tr><td>c</td><td>0</td></tr> <tr><td>c-</td><td>0</td></tr> <tr><td>d+</td><td>0</td></tr> <tr><td>d-</td><td>0</td></tr> </table>	達成度	人数	b+	5	b	8	b-	0	c	0	c-	0	d+	0	d-	0	外部評価	<table border="1"> <tr><th>達成度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>b</td><td>14</td></tr> <tr><td>b-</td><td>0</td></tr> <tr><td>c</td><td>0</td></tr> <tr><td>c-</td><td>0</td></tr> <tr><td>d+</td><td>0</td></tr> <tr><td>d-</td><td>0</td></tr> </table>	達成度	人数	b	14	b-	0	c	0	c-	0	d+	0	d-	0	外部評価	<table border="1"> <tr><th>達成度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>b+</td><td>2</td></tr> <tr><td>b</td><td>12</td></tr> <tr><td>b-</td><td>0</td></tr> <tr><td>c</td><td>0</td></tr> <tr><td>c-</td><td>0</td></tr> <tr><td>d+</td><td>0</td></tr> <tr><td>d-</td><td>0</td></tr> </table>	達成度	人数	b+	2	b	12	b-	0	c	0	c-	0	d+	0	d-	0
			達成度		人数																																																	
			b+		5																																																	
b	8																																																					
b-	0																																																					
c	0																																																					
c-	0																																																					
d+	0																																																					
d-	0																																																					
達成度	人数																																																					
b	14																																																					
b-	0																																																					
c	0																																																					
c-	0																																																					
d+	0																																																					
d-	0																																																					
達成度	人数																																																					
b+	2																																																					
b	12																																																					
b-	0																																																					
c	0																																																					
c-	0																																																					
d+	0																																																					
d-	0																																																					
内部評価	b	内部評価	b	内部評価	b																																																	
外部評価	b+	外部評価	b	外部評価	b																																																	
4 高齢者	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)	外部評価	<table border="1"> <tr><th>達成度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>b</td><td>12</td></tr> <tr><td>b-</td><td>0</td></tr> <tr><td>c</td><td>0</td></tr> <tr><td>c-</td><td>0</td></tr> <tr><td>d+</td><td>0</td></tr> <tr><td>d-</td><td>0</td></tr> </table>	達成度	人数	b	12	b-	0	c	0	c-	0	d+	0	d-	0	外部評価	<table border="1"> <tr><th>達成度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>b+</td><td>5</td></tr> <tr><td>b</td><td>5</td></tr> <tr><td>b-</td><td>2</td></tr> <tr><td>c</td><td>1</td></tr> <tr><td>c-</td><td>0</td></tr> <tr><td>d+</td><td>0</td></tr> <tr><td>d-</td><td>0</td></tr> </table>	達成度	人数	b+	5	b	5	b-	2	c	1	c-	0	d+	0	d-	0	外部評価	<table border="1"> <tr><th>達成度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>b</td><td>1</td></tr> <tr><td>b-</td><td>2</td></tr> <tr><td>c</td><td>1</td></tr> <tr><td>c+</td><td>10</td></tr> <tr><td>c-</td><td>0</td></tr> <tr><td>d+</td><td>0</td></tr> <tr><td>d-</td><td>0</td></tr> </table>	達成度	人数	b	1	b-	2	c	1	c+	10	c-	0	d+	0	d-	0
			達成度		人数																																																	
			b		12																																																	
b-	0																																																					
c	0																																																					
c-	0																																																					
d+	0																																																					
d-	0																																																					
達成度	人数																																																					
b+	5																																																					
b	5																																																					
b-	2																																																					
c	1																																																					
c-	0																																																					
d+	0																																																					
d-	0																																																					
達成度	人数																																																					
b	1																																																					
b-	2																																																					
c	1																																																					
c+	10																																																					
c-	0																																																					
d+	0																																																					
d-	0																																																					
内部評価	b	内部評価	b	内部評価	c																																																	
外部評価	b	外部評価	b	外部評価	c																																																	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。	すぐ	・これまでのスポーツ選手派遣事業などを、平成21年度から新たに「夢工房 未来(みらくる)先生 ふれ愛推進事業」として拡大実施し、平成22年度はすべての市立小学校で、平成23年度からは、すべての市立幼稚園・小・中・特別支援学校で実施します。	・すべての市立幼稚園、小・中・特別支援学校で実施	・すべての市立幼稚園、小・中・特別支援学校161校で延べ181回実施	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表通りと判断。
河西委員	b+	分野がスポーツ音楽が多いようですが、その場で受けた感動が将来めざす目標や夢のきっかけになればいいと思います。コストの面で「+」。
木島委員	b	数としてはクリアしているが、倍増プランの狙いである「子どもの好奇心をのばす」についての成果が不明。
栗原委員	b+	「報酬費の削減」とあるが、当初予算からどの程度、削減できたのか？資料からは読み取れなかった
須藤委員	b	子供の将来の夢（将来なりたい職業）等も参考に講師を選定することも検討に値する。 (ex: 科学者、医者、パティシエ、美容師等)
高木委員	b	工程表通り進捗。161校に対して181回実施し、20回多く行っており、20校の子供たちが高評価だった点が良かった。コストパフォーマンス等の効率化に向けた取り組みが具体性に欠け分かりにくい。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの進捗・内容である。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b	リストの充実を図るとともに、子どもたちとの交流の充実のために、授業の方法についての経験の蓄積を全市的に共有していく必要がある。
福崎委員	b+	市内団体との連携で、報酬費を削減するアイデアを評価。
星野委員	b	目標数を達成していますが、コストパフォーマンスを更に努力して下さい。
町田委員	b-	目標設定していた学校のすべてで、実施したことで数値的な目標は達成できたと評価できる。 このような機会や情報は、地域社会への開放や地域との交流との場としてのきっかけづくりとしても有効と考える。ひとつの施策が多くの効果を生むような工夫や調整がしてあれば加点評価としたい。
三浦委員	b	事業の数値的実績は見えるが、内容や効果が見えない。 生徒や担当教員の反響を踏まえた内部評価が求められる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	18-1	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (読み・書き・そろばん)	2年以内	・平成22年度末までに、基礎学力定着プログラムなどを見直し、「読み・書き・そろばんプロジェクト」を推進します。	①研究指定校・推進モデル校14校の委嘱、研修会の実施 ②「さいたま土曜チャレンジスクール」での書道・そろばんの実施	①研究指定校・推進モデル校14校の委嘱、研修会の実施 ②「さいたま土曜チャレンジスクール」15教室での書道・そろばんの実施	b	・概ね平成23年度の数値目標・取組内容・工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表通りと判断。
河西委員	b+	書道やそろばん昔はよく見かけましたが、今はあまり接することがありません。でも、読解力や伝達力は必要ですし、技能としても役立つと思います。集中力も身につくと考え継続を評価。
木島委員	b	そもそもの目標が曖昧で、「推進」することが目標になっているが、H24年度は基礎学力向上が測れる指標を元に目標を設定すべき。
栗原委員	b	
須藤委員	b+	読み「読書」の効用は広く認められており、「学習状況調査」での国語正答率の上昇等成果がでている点をプラス(+)評価。
高木委員	b+	取組状況で資料や内容をHP掲載したり、ワークシートやリーフレットを作成している点に工夫を感じた。 また、さいたま市学習状況調査の結果、平均正答率が向上している点に実施の効果が感じられ、効率的な取組であると判断した。事業費がH22とH23で0円であり、コストパフォーマンスの効率化がされている判断した。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの進捗と考える。 なお、土曜チャレンジスクールの全数と、それに対する15校が占める割合を要確認とする。
橋本委員	b-	概ね、事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 学習指導要領が変わり、現場における作業量の割合が行われているかどうか、心配です。
廣瀬委員	b	ワークシートの作成が進んでいることは分かるが、その活用度合いはどうか。
福崎委員	b-	国語力は間接的効果で、事業との因果関係は薄いのではないかと。
星野委員	b	土曜チャレンジスクールでの開催回数は適正なのか？
町田委員	b-	実施したことで目標は達成されていると評価する。ただし、教室を実施することが目標とされているだけで、No17の事業のような具体的な数値目標が見えないため、減点評価とする。そろばん教室こそ、地域講師などを招き、地域との交流が図れるよい機会だと考えるがそのような事業をモデル校として実施していれば加点評価としたい。
三浦委員	b	事業実施の結果として、学習状況調査のポイント上昇という成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	18-2	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (なわとび・逆上がり)	2年以内	・平成22年度末までに、長縄8の字跳びの参加グループ数を200グループ増やし、1,400グループとします。 ・平成22年度末までに、補助板を活用した逆上がり成就度を91%から93%とし、平成24年度末までに、補助板を活用しない成就度を70%から80%とします。	①長縄8の字跳びの参加グループ数3,655グループ ②補助板を活用した逆上がり成就率93% ③補助板を活用しない逆上がり成就率は75%	①△長縄8の字跳びの参加グループ数3,708グループ ②△補助板を活用した逆上がり成就率94.1% ③▼補助板を活用しない逆上がり成就率は70.5%	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表通りと判断。
河西委員	b+	率直に言って今の児童はやや身体がふっくらしている子が多いような気がします。エネルギーの過剰摂取や運動不足が原因とするならば、必要な能力として学習として 目標を数値化したりなどして取り組むようにできればいいと思います。ゲームや漫画のようなインドアな遊びに制限をかけたり否定的に考えるより、運動能力向上を、九九のように必須であると概念として共有できれば、運動能力のボトムアップになると思います。コスト面で評価。
木島委員	b-	補助板なしの成就率は昨年も目標に達せず、質問に対し「今後とも取組の周知、充実を図っていく」と回答があったにも関わらず特に対策が打てていない。評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。 H24年度は基礎学力向上が測れる指標を元に目標設定を検討して欲しい。
栗原委員	b	
須藤委員	b	
高木委員	b	工程表通り進捗。基礎体力向上のため、参加グループ数が増えた点が良い。逆上がりで補助板にこだわる必要もない気がする。二人一組みで行うなど、相手をサポートすることで達成し、お互いの成長につながれば良い。
高島委員	b-	おおむね工程表どおりだが、 が目標を下回ったので「-」とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b-	八の字飛び参加グループは目標通りの水準であるが、逆上がり(補助版なし)の成就率は目標を大きく下回る。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 職場が学校の近くにありますが、該当プロジェクトの活動を見たことがありません。
廣瀬委員	b	22年度の中学年の取り組み成果が、24年度の高学年の成績となってくる。その段階でこのプログラム全体が成功したのかどうかを判明するととらえるべき。
福崎委員	c	逆上がりを成功させることが事業の取り組み指標であるため、減少について重視。
星野委員	c+	補助版を活用しない逆上がり成就率が目標に届かなかった。
町田委員	c	補助板を活用しない逆上がり率が具体的な数値目標であるため、その目標値75%は達成できていたため「c」とする。 数値目標の達成が主目的でなく、こどもたちの「自信」や「生きる力」を育むのを真の目的としていただきたい。
三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	18-3	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (あいさつ・礼儀)	2年以内	・平成22年度末までに、あいさつや礼儀を踏まえた言葉で溢れる学校づくりを目指し、すべての市立小・中学校で「あいさつ運動」に取り組みます。	・あいさつや礼儀を踏まえた言葉で溢れる学校づくりを目指し、指定を受けた「あいさつ運動推進モデル校」の取組例を示すなど、各学校における「あいさつ運動」の充実に取り組みます。	・「あいさつ運動」を保護者、地域の方々、関係機関と連携して実施。 ・「あいさつ運動推進モデル校」(小・中併せて20校)における「あいさつ運動」を推進。	b	・平成23年度の取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表通りと判断。
河西委員	b	あいさつは人間の基本です。習慣化は当然必要なことです。もっとアイデアを加えて週間月間で英語、中国語、フランス語などと外国語まで身につけられれば楽しいかも。初めのあいさつだけでもできるようになれば今後外国人とコミュニケーションにも役に立つかも。モデル校だけでなくコストを抑えて全校で取り組めないのですか。？保護者と職員の負担がないと取り組めないのですか。？
木島委員	b	「取り組む」ことが目標となっているため、少しでも行えば評価となり、反面きちんと取り組んでいることが高く評価できない。H24年度はできる限り測定可能な単年度目標を設定するなどの工夫をし、今まで通り高い意識で取り組んで欲しい。
栗原委員	b+	取り組みの対象を保護者まで広げた事を評価。
須藤委員	b	社会生活の基本であり、地道な取組みが望まれる。
高木委員	b+	工程表通り進捗。校舎内の工夫だけでなく、ポスターや絵画を掲示し、地域ぐるみであいさつの啓発を図った点が良い。さらに、事業費が毎年減っているため、効率的であると判断した。具体的になぜ、どのように減ったかが分かるとさらに良い。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの取り組み・成果と判断する。ただし、参考資料(19-22頁)の各取組は全校で実施したものか、一部のみであるのかが、資料から判断できず。仮に一部のみであれば、評価は下げる必要があるであろう。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b	概ね期待された成果がでているのではないかな。
福崎委員	b+	ネットワーク形成に力を入れている点。
星野委員	b	—
町田委員	b-	あいさつ運動をどのように取り組んだかが評価どころ。実施した点では予定どおりと評価する。ただし20校のモデル校のみでは、全市立小中学校の15%にも満たないため、減点評価とする。授業の中で人間関係プログラムなるものを独自展開した点は、工夫点として加点要素としたい。
三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	18-4	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (早寝・早起き・朝ごはん)	2年以内	・平成22年度から、生活習慣向上のための「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する市独自のキャンペーンを実施し、すべての市立小・中学校で取り組みます。	①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する「すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上」キャンペーンの全市立小・中学校での実施 ②研究指定校・推進モデル校委嘱 ③生活習慣に関するアンケート調査実施	①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する「すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上」キャンペーンの全市立小・中学校での実施 ②5月に研究指定校4校・推進モデル校10校を委嘱 ③4月に生活習慣に関するアンケート調査を児童生徒と保護者に実施	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗と判断する。
河西委員	b	「早寝・早起き・朝ごはん」は基本的に家庭の管轄と思いますが、将来の健康面にも関係するのでキャンペーンはとて有意義だと思います。ただあくまでも「早寝・早起き・朝ごはん」心がかかる意識の問題なので結果の数字は状況把握のためだけで成果程度は参考までに。極端に成果の変化（数字）が見られたのが気になりました。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	18-3 基礎学力向上のためのプロジェクト（あいさつ・礼儀）と同様。「取り組む」ことが目標となっているため、少しでも行えば評価となり、反面きちんと取り組んでいることが高く評価できない。H24年度はできる限り測定可能な単年度目標を設定するなどの工夫をし、今まで通り高い意識で取り組んで欲しい。	廣瀬委員	b	概ね期待された成果がでていないか。
栗原委員	b		福崎委員	b+	アンケート調査の活用をしている点。
須藤委員	b	家庭との連携が大切であり、親への啓蒙も併せて図る必要がある。	星野委員	c+	キャンペーンでは具体的に何をしているかが明確でない。
高木委員	b	工程表通り進捗。	町田委員	b+	キャンペーンをどのように実施したかは読み取れなかったが全校で実施した実績により目標数値は達成したと評価します。モデル校の設定やアンケートの取り組みなど独自性のある取り組みもされており、課題も見いだせたという点において、加点評価とします。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b-	取り組みそのものは目標通りかもしれないが、その結果を図るアンケート調査からは取り組みの成果があがっているのかどうか、判断がつかない。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	19	「放課後子ども教室」を倍増します。	2年以内	・平成22年度末までに、放課後子ども教室を20教室増やし、40教室に倍増します。 ・平成25年度末までの全小学校区の配置を目指し、平成24年度末までに、80教室とします。	①新規30か所含む、合計70か所実施 ②新規開設にあたり、さいたま土曜チャレンジスクールの一体的な整備・拡充を実施。	①新規実施32か所を含む、合計72か所で実施 ②平成22年度より、整備計画の1年前倒しを実施	b	・平成23年度の目標、工程表のとおり実施したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。
河西委員	b	放課後や土曜日のケアとはすごくゆきとどいたサービスだなと思います。ならば協力者を積極的に募って徹底したものになればいいと思います。今年度の期待事業でしょうか。
木島委員	a	倍増プラン策定時の工程表より早く進捗している。 (実績72箇所/工程60箇所=120%)
栗原委員	b	
須藤委員	b+	延べ参加人数84,500人と多数に及び子供への影響が大きいこと、並びに整備計画の1年前倒し実施・達成をプラス(+)評価。
高木委員	b+	予定を上回る数で実施し、参加人数が多く、さらに参加児童の評価が高いため「b+」判断した。内容も充実している。整備計画を1年前倒ししている点も良い。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの内容である。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 教職員の負担はどの程度か？ ボランティアの確保については？
廣瀬委員	b+	前倒しの計画を若干上回っていることと、アンケート結果が非常に好評であることから、加点した。
福崎委員	a+	前期の遅れを取り戻し、工程表より進んだ点。他事業との連携は重要。
星野委員	b	ボランティアの人数の確保や研修会にどのように取り組んだかをご回答いただきたい。
町田委員	a	放課後チャレンジスクールの具体的実施が当初計画を超えて実施されているため、目標を上回っていると評価します。 また、地域住民のかかわりや地域の特性をどの程度生かしているのかが資料ではよみとれないためこの点を考慮して最終的な評価とさせていただきますと考えています。
三浦委員	b	教室数は目標通り拡充している。 ただし、地域の声を聴くと、開設済みの小学校で定員オーバーとなっている実態があるようなので、受け入れ児童数の拡充も今後の課題と思われる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	20-1	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。 (児童相談所の充実)	2年以内	・人口1人当たりの児童福祉司、児童心理司の人数が政令指定都市でトップクラスになるよう、児童福祉司12人、児童心理司3人、児童精神科医師1人を増員します。 ・虐待相談の対応のうち、継続指導を行う割合を3%から20%に増やします。 ・施設入所中の児童と保護者に対して援助を行うことにより、家族再統合の割合を全入所児童の75%とします。	①継続指導の割合 15% ②家族再統合の割合 全入所児童の50%	①継続指導の割合 15.1% ②家族再統合の割合 全入所児童の52.6%	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したため「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。
河西委員	b	目標を数字で設定することが適当なのか、数字による結果は現実を映しているか疑問です。
木島委員	b	「課題」欄に上げている、職員の専門性向上の強化はもちろん、職員に対するケアも重要と考えられる。
栗原委員	b	
須藤委員	b	少人数の専門化で効果的に事業が行えるよう、各種関係団体（NPO等含む）との連携がより重要。
高木委員	b	工程表通り進捗。参考資料が少ない。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの成果である。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。人員増による再統合のペースアップは可能なのか？
廣瀬委員	b	—
福崎委員	b+	事務効率化への取り組みが有った点。
星野委員	b	—
町田委員	b	従来からあった計画に加え、家族支援プログラムを具体的に策定し、平成23年度には各資格者増員体制を整えたことで予定どおりと判断します。 平成23年度の予算7,400万の内訳の使用用途はどういったものでしょうか？
三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c, dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	20-2	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。 (保健所の充実)	2年以内	・児童虐待防止の体制を強化するため、保健師4人を増員し、専任組織を設置します。 ・対応職員の資質の向上を図り、育児中、イライラすることが多い親の割合を10%以下に減らします。	①保健師3人増員 ②体系的な研修の開催(5回) ③専任組織「(仮称)親子すこやか支援係」の設置	①保健師3人を増員 ②平成23年度子ども虐待予防対応研修会を開催(1回332人参加) ③専任組織「(仮称)親子すこやか支援係」設置への取り組み(平成24年度設置)	b	・市内部での調整に時間がかかり、平成23年度に、専任組織としての「(仮称)親子すこやか支援係」設置とはならなかったが、グループ体制として実質的には機動していたので「b」と評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。	長野委員	b-	研修受講者が対象層のどれだけかをカバーしているのか不明のため、判定が難しい。専任組織が設置されなかったことについて「要望しただけできなかった」と報告されている。個票の記述は市としてオーソライズされた内容であることを鑑みれば、内部組織編成権を持つ市長の判断の誤りと自ら主張していると理解してよいのか？こうした批判を是とすると、本委員会が検討する全項目に対して、目標達成が出来なかった理由として、市長あるいは予算査定を担う財政部門の責任を非難するという部門間対立の構図が持ち込まれてしまうのではないかと危惧される。
河西委員	b	親の感情は子供に大きく影響していきませんが、育児はあまりにもケースバイケースなことなので取り組みの効果はわかりません。ただ姿勢は評価できますし、その姿勢が虐待を減らしていくことを期待します。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。数値目標で掲げられているイライラ10%-に違和感があるので、削除は出来ないのか？
木島委員	b	「課題」欄に上げている、関係機関との連携強化や地域での包括支援は特に重要。専任組織の活動はもちろんだが、それを市全体でフォローする仕組みでなければ関係機関との連携強化は難しいはずで、「市内部での調整」も重要だが、速やかに進捗して欲しい。	廣瀬委員	b	専任組織の設置が遅れた減点と、研修の充実による加点で相殺。
栗原委員	b	研修についての評価と組織設置に至らなかった点を相殺し「b」とした。	福崎委員	b-	係の設置が進んでいるが、工程表より遅れている点。
須藤委員	b	少人数の専門化で効果的に事業が行えるよう、各種関係団体(NPO等含む)との連携がより重要。	星野委員	c	「(仮称)親子すこやか支援係」の設置に至らなかったのが残念です。
高木委員	b	工程表通り進捗。平成23年度子ども虐待予防対応研修会参加者がH22年に比べ約2.5倍増えている点が良い。	町田委員	b	本当に必要なところへ、必要なサポートを積極的に実施して欲しいと願います。子どもも親にも「あなたはひとりではない」という心のケア・いつでも相談できる。なんでも気軽に話せるという環境の構築が必要と考えます。
高島委員	b-	おおむね工程表どおりだが、 が設置に至らなかったため「-」とした。	三浦委員	b-	現行の係内で専任のグループ体制を整えたところがあるが、専任であれば係をつくれるはずではないか。なぜ、専任係をつくれなかったのか。その係の業務分掌は本当に専任と言えるのか。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c, dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	22	子どもの想像力を高める「子ども博物館構想」を推進します。	4年以内	・子ども博物館の実現に向け、平成22年度末までに、「子ども博物館構想」等として取りまとめます。	・子ども博物館構想の取りまとめ	・子ども博物館構想(案)としてとりまとめ	b	・平成23年の目標のとおり概ね進捗したので、進捗度を「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。
河西委員	b	基本的に、箱ものの計画は（子供総合センターの予定もあることだし。）、どうしてもつくるのなら利用率の均整と100年は持つ頑強なものを。
木島委員	b-	庁内の調整、意思決定が困難な案件と推定できる。 案を作り上げたのち、構想を具体的に取りまとめるための工夫が見られていないため、マイナス評価とする。 H24年度も継続してこの事業を実施するのであれば、この構想をどうするか、目標を明確にかつ具体的に設定し、その上で実行するべきと考える。
栗原委員	b	
須藤委員	b-	いわゆる「箱物」であり、内容と費用（ランニングコスト含む）対効果を充分検証する必要あり。
高木委員	b-	効率的に実行に移した事が具体性に欠け分かりにくい。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b-	構想に対して庁内の最終決定（承認）は行われていないため、「市によるとりまとめ」とは言えないのではないかと。
橋本委員	c	停滞感があります。
廣瀬委員	b	構想としてはとりまとめられ、プランの目標までは到達したが、その先をどう実現していくのか。
福崎委員	c+	ソフト事業の実施がされた点。
星野委員	b-	構想の取りまとめんびに関して市民のニーズをどの程度掴んでいるかが疑問です。
町田委員	c	具体的な方向性がみえないため評価がわかりません。昨年度の「都市経営戦略会議」での議事録にも紹介されてありましたが、必ずしもハードに特化した施策にならなくてもよいと個人的には考えています。 さいたま市全体が「こども博物館」という発想を目指し、ソフトの充実を願います。
三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	23-1	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。 (1日保育士体験)	4年以内	・平成24年度末までに、父親の1日保育士・教諭体験参加者数を、年間1,280人にします。	・体験参加者数1122人(平成22年度実績の320人増)	・★体験参加者数973人	C	・平成23年度の数値目標を達成できなかったため、進捗度を「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標に達しないため。
河西委員	b	すごくおもしろい取り組みだと思います。参加者や認知がのびなくても10年以上の長いスタンスで取り組んでほしいです。
木島委員	C-	課題として職場での休暇取得としているが、そもそも父親が参加するための機会づくり、動機づくりへの取り組みが見られない。 目標数未達(実績981人/目標1,122=87%)に加え、取組みへの工夫が見られずマイナス評価とする。
栗原委員	C	より一層、職場等への配慮が必要。
須藤委員	C+	目標未達ではあるが、逐年参加者数が増加している点を評価し、「c+」とする。
高木委員	C	参加者数が目標より少なかったため。参考資料が少ない。
高島委員	C	目標に達していないので進捗度は「c」と判断。 不達の理由についての分析をし、24年度につなげてほしい。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	C	目標値に達せず。 「職場での休暇取得が課題」と提示するならば、市による公共事業・調達等の参入条件として誘導するということまでを政策意図を含めての記述であるのか？
橋本委員	C	未達成への検証はなされているのか？ それを踏まえた参加アプローチへの取り組みはされているのか。 さいたま市職員の参加者数はデータであれば知りたい。
廣瀬委員	C+	23年度目標としては達成できていないが、当初計画の目標には届いているので、加点。
福崎委員	C+	着実に参加者が増えている点。感想文掲示など父親の参加意欲を高める工夫。
星野委員	C-	参加動員について努力が足りないように思います。
町田委員	b-	父親のこ育てへの理解・参画という点で、当初の予定数どりの実績をあげた点で予定どりと評価しますが、修正目標にはいたらなかったため減点評価とします。 さいたま市内への企業へのPRや、経営者への理解がイクメンの普及には大きな効果があると個人的には考えています。こどもの未来のためにも周囲の環境の価値観をかえることで父親が気づくという仕掛けをお願いしたい。そのためにも産業振興課や教育委員会、地域振興課など、関係各課との連携をお願いしたい。これらの連携や実績があれば加点評価としたい。
三浦委員	C+	難しい取り組みだが、着実に参加者は増えており、懇談会の開催や感想文のフィードバックなど、成果共有の取り組みも評価できる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	23-2	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。 (子育て支援センターの活用)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての単独型子育て支援センターで土曜日開所を実施します。 ・平成24年度末までに、各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年12回に増やします。	①各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年10回開催 ②各種の媒体を利用して広報し、利用者数5%増加(対前年比)	①各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年12回開催 ②★市発行の子育てに関する冊子やWEBサイトに情報を掲載するも、利用者数1%増加	C	・各センターで実施する父親主体の講座やイベント開催実績は目標を達成できたが、利用者数の増加目標は達成できなかったため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標に達しないため。
河西委員	b	パパママいずれにも土曜日の施設開所は意味があることだと思います。
木島委員	C-	目標数未達（実績1%：目標5%）に加え、利用者増加への取組みの工夫が見られずマイナス評価とする。 なお、利用者増加への取組みが課題として上がっていないのは大きな問題点。
栗原委員	C	
須藤委員	C	利用者数拡大の難易度高い。 利用者（父親）のニーズ（講座内容、開催日時等）を探ると共に広報のあり方も検討すべし。
高木委員	C	市発行の子育てに関する冊子やWEBサイトに情報を掲載したが、利用者数が伸び悩んだ理由を調査した方が良い。見てる人や興味を持つ人が少なかったのか。それはなぜなのかなど。
高島委員	C	が目標に達していないので進捗度は「c」と判断。 更なるPRの方法を考え、利用者数の増加につなげてほしい。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	C	利用者数は目標に大きく届かず。
橋本委員	C	利用者減の分析は？ 事業内容とのミスマッチなのか環境要因なのか？
廣瀬委員	C+	活動指標的には目標通りの取り組みだが、利用が広がっていない。
福崎委員	C-	利用者アップの工夫を、もっと増やして報告してほしい。
星野委員	C	—
町田委員	b-	支援センターの開設、土曜日の開所については当初の予定どおりと評価します。 利用者の増加は日曜開設が大きい効果を発揮すると思う。 企業へのPR活動も有効と考える。優良企業制度などに子育ての評点を増点し、経営者の啓発育成が大切と考える。
三浦委員	C+	講座やイベントの実施や広報なども努力が見られるが、顕著な利用者増にはつながっていない。 次年度に向けて、課題や改善点を明確にする必要を感じる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	23-3	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。 (ワークライフバランスの認知度向上)	4年以内	・平成24年度末までに、ワークライフバランスの認知度を35%にします。	①ワークライフバランスの認知度35% ②父子健康手帳の作成 ③子どもフォーラムでの周知 ④企業向けワーク・ライフ・バランスセミナーの開催 ⑤ワークライフバランス会議の開催	①☆ワークライフバランスの認知度51.5% ②父子健康手帳の作成 ③子どもフォーラム2011での周知 ④セミナーの開催 ⑤★ワークライフバランス会議開催に向けた調整	b	・平成23年度の数値目標、取組内容のとおり進捗したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。
河西委員	b	用語の認知度よりも意識と実行あってこそと考えます。
木島委員	c-	二年連続でワークライフバランス会議が開催できていないことに加え、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。
栗原委員	b-	ワークライフバランスの浸透度が上記2項目の数値向上の鍵となるのでは？
須藤委員	b	目標設定として「ワークライフバランス」という抽象的かつ一般に浸透していない度数を掲げることの是非。 仮に目標とした場合、認知度をどう計測したのか。
高木委員	b+	ワークライフバランスの認知度が51.5%に向上（プラス）と、ワークライフバランス会議開催に向けた調整（マイナス）でのプラスが上回ったと判断。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b-	推進組織としてのWLB会議は構築されず。 認知度調査でインターネット調査が利用されていることについて、調査サンプルの偏りが大きいこと十分予想されるため、その結果を評価情報として利用することは留保せざるを得ない。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b	認知度は大きく向上したが、さいたま市の取り組みの効果とは思われないので。
福崎委員	b-	会議の開催がされなかった点。
星野委員	b-	ワークバランスの認知度を調べる方が不透明です。 アンケートの回答数など詳細がわかりません。
町田委員	c	PRのためのHP作成や子どもフォーラムでの周知活動などについては、予定どおりに実施したのかもしれないが、認知目標値が示されているため、その達成度では、50%程度であるため「c」評価とします。今年度の施策に期待します
三浦委員	b	目標の達成度は「b」評価となるが、この取り組みの成果なのか、単に社会的認知が進んだタイミングだったのか？

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	23-4	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。 (親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての公民館で子育てパパ・ママ向けの講座を実施します。	①親の学習ファシリテーターを25人養成する ②親の学習事業を各区1公民館でモデル的に実施する	①△親の学習ファシリテーターを41人養成した ②△親の学習事業を生涯学習総合センター及び各区1公民館でモデル的に実施した	a	・親の学習ファシリテーターの養成人数について、目標を大きく上回る41人を養成したことから、進捗度を「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	親の学習に対し理解されていないため。
河西委員	b	すべての公民館にこだわる必要があるのでしょうか。
木島委員	a	ファシリテーター養成の達成率を評価。 (実績41人/目標25人=164%)
栗原委員	b+	
須藤委員	a	超過達成を評価。 今後の活用を期待。
高木委員	a	親の学習ファシリテーターの養成人数が、目標を大きく上回る41人を養成したため。
高島委員	a	内部評価と同じ理由で進捗度「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b+	ファシリテーター養成講座について、実技・卒業試験などにより、人材の品質管理がどこまで図られているのか判断できないため、25名目標に対する41名という意義が判定できない。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 効率化、実施に向けた特筆すべき取り組みがないので、加点しませんでした。
廣瀬委員	a	学習ファシリテーターの養成数が伸びた。
福崎委員	a	—
星野委員	a	—
町田委員	b	ファシリテーターの育成、公民館での新規講座の開催など予定どおりと判断。ファシリテーターの予定数を上回る認定者は、加点要素としたいところだが、運営側の体制に課題があると感じているため「b」評価とした。市内全59の公民館で講座を開催する計画を策定しているが、主催する側の公民館とファシリテーターの意識のギャップが大きいという話をよく聞く。運営サイドの現場に事業の必要性を説明するとともに、職員への育成・啓発も必要だと感じている。
三浦委員	b+	ファシリテーター養成は目標数値を上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	24-1	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。 (認可保育所)	4年以内	・待機児童ゼロを目指し、平成24年度末までに、認可保育所の定員を1,100人増やします。	①保育所定員400人増 ②翌年度の定員400人増 に向けた準備	①☆保育所定員580人増 ②☆翌年度の定員730人 増に向けた準備	a	・平成23年度の数値目標を上回る進捗を実現したため、「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回ったため。
河西委員	b	待機児童はゼロが理想ですが。空きがあるくらいが望ましいです。
木島委員	a	保育所店員増の人数達成率を評価。 (実績580人/目標400人=145%)
栗原委員	a	
須藤委員	a	喫緊かつ重要な事業の超過達成を評価。保育需要が高い地域での定員増加が図られた点も評価。
高木委員	a	保育所定員が580人増え、翌年度の定員730人増加に向けた準備を実現し、目標を上回ったため。
高島委員	a	内部評価と同じ理由で進捗度「a」と判断。 しかしながら、待機児童がさほど減っていないのは目標設定の誤りか？

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	a	目標を上回る実績値を得ている。ただし、H22年度中に行われるH23年度目標設定と、H23当初予算編成は相互応答であることを踏まえると、本事業は補助金交付で誘導すると考えられるため、事業者への補助金枠を設定する段階でどのような見積もりを立てたのか、確認が必要かと考える。なお、補正予算で対応しているということであれば、別の議論となろう。
橋本委員	b+	内部評価を受けて、加点。
廣瀬委員	a	目標を上回る整備が進んだ。
福崎委員	a+	利便性を重視している点。
星野委員	a	—
町田委員	a+	待機児童解消についての予定の定員増にむけて、400人予定を580人の定員増であり、目標を上回っていると評価。平成24年度においても当初計画の8割増の数値で計画していることに加点評価。
三浦委員	a	目標数値を上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c, dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	24-2	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。 (ナースリールーム・家庭保育室)	4年以内	・待機児童ゼロを目指し、平成24年度末までに、ナースリールームと家庭保育室の定員を合計900人増やします。	①ナースリールーム・家庭保育室定員300人増 ②翌年度の定員300人増に向けた準備	①ナースリールーム・家庭保育室の定員317人増 ②翌年度の定員328人増に向けた準備	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りのため。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	ナースリールームのような場所の需要は多いのか、また望ましいのか。新生児の受け入れをお断りするのはいけないけれど、需要の増加を見込むのもどうなのでしょう。もちろん空きがあるくらいの状態で、施設の充実はいいことです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	概ね目標通り
栗原委員	b		福崎委員	a+	利便性を重視している点。
須藤委員	b	定員増だけではなく、中味の点検も必要。 利用者の満足度等	星野委員	b	—
高木委員	b+	便利性の高い駅周辺をはじめ、需要の高いエリアを中心に定員増を行い、目標を上回って達成したため。	町田委員	b	待機児童解消についての予定の定員増にむけて、300人予定を317人であることで予定通りの進捗と評価
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	認可保育所は年度目標を上回る整備が実現している(予算づけがされている)のに対し、ナースリールーム・家庭保育室は設備基準を満たす申請が目標より多いことになぜ対応できないのか？

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	25-1	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備します。 (小児救急)	4年以内	・市民に対して小児救急医療の正しい受診方法の普及啓発を行うことにより、小児救急医療の一層の環境整備を図り、小児救急医療体制を確立します。 ・市内の医師会・中核病院の協力を得ながら、初期・二次・三次といった重層的な小児救急医療体制を確保した上で、平成24年度末までに、二次や三次の医療機関で受診していた初期救急患者の割合62%(平成21年2月時点)を、35%以下に抑制します。	①小児救急医療体制の確立及び小児救急医療の提供(平成22年の初期救急患者割合14%) ②「さいたま市小児救急ガイドブック」の作成・配布 ③適正受診の定着に向けた方策の検討	①初期救急患者割合10% ②「さいたま市小児救急ガイドブック」を2万部作成・配布 ③適正受診に関するポスターを試験的に掲示	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	工程表通りと判断。
河西委員	b	救急の件だけではなく小児専門の医療の場所移転についてくわしく知りたい。ヒアリング希望します。親の小児医療の勉強の場をもてないでしょうか。育児の中で不安感を救急医療の充実だけに頼るよりも、建設的だと思います。むしろ県と協力して大規模で日本一クオリティーの高いし設備を目指してほしいです。
木島委員	b	目標通りの進捗。目標を達成できている背景にガイドブックのわかり易さといった地道な取り組みが考えられる。
栗原委員	b	
須藤委員	b	
高木委員	b	初期救急患者割合が10%で、前年度に比べ下がっているが、「さいたま市小児救急ガイドブック」を2万部作成・配布しているため「b」と判断。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの進捗である。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
廣瀬委員	b+	—
福崎委員	b	初期救急患者割合は減少がいいのか不明確。事前質問の回答によって評価変更する。
星野委員	b	—
町田委員	a+	当初目標値であった初期救急患者の割合35%以下が10%であることより目標を上回って達成していると評価します。その数値にあっても達成度では200%を超えることより加点評価とします。
三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c, dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。	4年以内	・平成24年度末までに、市立高校に在学する生徒・保護者の満足度100%を目指します。	①学校における検討の最終報告の実施(7月) ②第3回市立高等学校教育満足度調査の実施(12月～)	①市立高等学校将来構想検討委員会を7回開催 ②市長と教育委員の意見交換会を開催(8月) ③市立高等学校教育満足度調査の実施(1月)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	満足度に関し意見交換したため。
河西委員	b	進学や英才教育と平行してさいたま市全体のボトムアップまでつなげたいと思います。満足度の数字が高いですが、「満足度」があまりに抽象的で何を指すのかわかりません。
木島委員	b	目標通りの進捗。 質の高い特色のある学校づくりを目指して行なった取り組みであることを認識し、常時検証していくことが重要。各校の計画が特色となっていくか、効果測定や方針転換の検討が必要。
栗原委員	b	
須藤委員	b	
高木委員	b	工程表通り進捗。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b	工程表通りの進捗である。
橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 満足度100%の標記に違和感を感じます。
廣瀬委員	b	内部評価と同じ判断。
福崎委員	b+	合同授業といった、高校間交流の取り組みがあった点。
星野委員	b-	来年度100%に向けて更なる努力が必要と考えます。
町田委員	b	100%の満足度を目標にするのは難しい設定だが、年々満足度が向上しており23年度は90%を超えたことで予定どおりの進捗と評価。 数値の向上は大切なかもしれないが、広く生徒や保護者や地域住民との対話を通して有意義な教育の場としての質の確保に尽力いただきたい。
三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。 ※市立高等学校教育満足度調査の全調査項目(設問)の資料提供を望む。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度末までに、不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合を50%に高めます。 平成21年度中に、いじめ対策プロジェクトチームを設置し、教職員研修の充実やいじめ問題の解消を目指した取組を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度末までに不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合を50%に高めます。 	<ul style="list-style-type: none"> △指導の結果、不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合は、62.7%となりました。 	b+	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので、「b」と判断。 不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合が62.7%となったことなどを加点点評価。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b+	予定通りのため。
河西委員	b	子どもの虐待の場合と同様に数値による目標設定が妥当なのかどうか。あくまでも参考であって、現状把握が大切だと思います。ネットの普及で、通常のマoralや道徳の内容を見直して、専門家を増やす以外に教師側も新人ベテラン共に時代に沿うべく研修が必要ではないでしょうか。
木島委員	a	不登校から登校になった割合の増加を評価。（実績62.7% / 目標50%）ただし、取り組みに大きな工夫は見えないためプラス評価は行わない。課題にあげているそもそも不登校を未然に防ぐ、という取り組みに期待したい。
栗原委員	b+	
須藤委員	b+	不登校児童に関しては両親の心痛等の負荷大。学校と家庭の連携（ex：専門のカウンセラーの共同活用等）の方法を検討すべし。
高木委員	b+	不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合は、62.7%となり、目標を上回って達成したため。取組内容も充実し、成果が出ていたため。
高島委員	b	工程表のおり進捗していると判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b+	年度目標を上回る結果を得ている。
橋本委員	b	概ね、事業計画(工程表)のおり進捗していると判断しました。 Q. 不登校児童生徒数990名のうち、62.7%が登校状態になったのか？
廣瀬委員	b+	—
福崎委員	a-	事業と数値結果の因果関係が直接的なものか不明な点。
星野委員	b+	登校できるようになった子どものケアを引き続きお願いします。
町田委員	b	不登校児の解消率50%という目標値が、平成23年度に62.7%ならば、目標値を上回っていると評価。しかし、この2年間学校でPTA活動をさせていただいたが、数値ほどに不登校の生徒が教室に戻れたという認識を持っていない。また現場においても不登校の解決に向けて、さわやか相談員と保護者、学級担任がお互いに協力して不登校の生徒への対応を積極的にしていたという認識はない。不登校の問題は、全体生徒の数の中では数%の少数対策であるがゆえに、その解決のための労力は相当なエネルギーを必要とする。不登校と今はなっていない他の保護者の理解も必要となることが多い。教師への不登校の問題も理解されているとは感じられない。保護者・教師への研修や周知の取り組みが今後も継続して必要と考える。
三浦委員	b+	登校できる状態になった児童割合が目標を上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、特別支援学級を市立小・中学校16校に新設し、54校とします。 平成24年度末までに、発達障害・情緒障害通級指導教室を4校に新設し、7校とします。 市南東部に肢体不自由児のための特別支援学校を平成24年度に新たに開校するとともに、市立養護学校の施設・設備の充実に向け準備を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学級を小学校4校、中学校2校に新設 ②発達障害・情緒障害通級指導教室を小学校1校に設置 ③新設特別支援学校の建設工事 	<ul style="list-style-type: none"> ①△特別支援学級を小学校4校、中学校3校に新設 ②発達障害・情緒障害通級指導教室を小学校1校に設置 ③新設特別支援学校の建設工事完了 	b+	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。特別支援学級を中学校に2校整備するところ、3校整備したことを加点点評価した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b+	予定を上回ったことにより。
河西委員	b	特別支援の充実は大変評価します。ただ当事者やその家族の気持ちとこれから受け入れる社会のことを考えるとにも意見できません。新聞に特別支援学校のいじめや暴力が水面下で多いとあったがその点のチェック体制はできているのか。
木島委員	a	特別支援学級新設数を評価。（実績3 / 目標2） ただし、取り組みに大きな工夫は見えないためプラス評価は行わない。
栗原委員	b+	
須藤委員	b+	
高木委員	b+	特別支援学級を小学校4校、中学校3校に新設し、目標を上回ったため。
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	b+	内部評価の判断は妥当と考える。
橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。 集約型から分散型への動きに関しては評価。人員設備に関しては十分とはいえない。
廣瀬委員	b	ほぼ工程表通りの取り組み
福崎委員	b+	工程より早く進んだ点。
星野委員	b+	今後も、児童・保護者・地域のニーズを把握して、施設数などの見直しも検討して下さい。
町田委員	b	平成23年度の目標数値を、予定どおり実施できたことで評価。 ※予算8億6千万の使用用途について興味があるところ。
三浦委員	b+	中学校の特別支援学級開設が、目標を1校上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	29	学校教育における食育を推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、すべての小中学校で学校教育ファームを実施します。 平成24年度末までに、給食における県内地場産物活用率を30%に、米飯実施回数を週3.5回に増やします。 平成24年度末までに、地元シェフによる学校給食を45校で実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育ファーム新規実施校 小学校34校、中学校9校（累計小学校100校、中学校25校） ②県内地場産物活用率26.0% ③米飯給食回数週3.4回 ④地元シェフによる学校給食 15校実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①△学校教育ファーム新規実施校 小学校36校、中学校36校（累計小学校102、中学校52） ②△県内地場産物活用率27.2% ③▼米飯給食回数週3.3回 ④地元シェフによる学校給食の実施 15校 	a	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、中学校ともに教育ファーム実施校の目標数を前倒して達成したことから、進捗度を「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	農業に関し前向きに対応したことによる。
河西委員	b+	生産過程を体験することで栄養や調理にも興味がひろがると思います。食べ物の好き嫌いが減ったり作り手への感謝などいろんなことが期待できそうです。
木島委員	a	学校教育ファーム新規実施校増（小学校実績36/目標34・中学校実績36/目標9）、および県内地場産物活用率増（実績27.2%/目標26%）を評価。
栗原委員	a	
須藤委員	a	土との触れ合い、労働体験等、教育ファームの狙いは充分達成。食育に関し、池沼地産の大切さ等を生徒に教育すべし（スローフード、フードマイレージの考え方を易しく解説）食育における家庭の役割大 地元シェフの給食時に母親参加を促す等、要検討。
高木委員	a	学校教育ファームを全ての小学校で実施したほか、中学校でも目標を大きく上回って実施したため。
高島委員	b+	工程表のとおり進捗しているので進捗度はbと判断し、で特に中学校での新規実施校が目標を上回っているため「+」とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
長野委員	a	学校教育ファームの新規実施数は目標を上回ることができた。県内地場産物活用も目標を上回っている。
橋本委員	b+	実施校増加による加点。どの程度継続性のある取組になっているのか？
廣瀬委員	b+	全体としてほぼ目標通りで、学校教育ファームについて加点
福崎委員	a-	米飯の取り組みが予定より少なかった点。
星野委員	a	目標に対して順調に進捗していると判断できます。
町田委員	a	小学校と中学校の両方で、予定計画数を大幅にうわまっているため、「a」と評価 ※当初の取組み目標のひとつとして掲げている「土曜チャレンジスクールとの連携」という点で配布資料からは読み取れなかったためその実施校がどの程度あるのかが興味があるところ。
三浦委員	a	中学校の教育ファーム実施校が大幅に前倒しされた。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c, dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。	4年以内	・平成22年度中に、メディアリテラシー教育を充実するため、携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。 ・平成23年度末までに、児童生徒・保護者・地域・教職員を対象とした「携帯・インターネット安全教室」をすべての市立小・中・特別支援学校で実施します。	①市立全小・中・特別支援学校160校での「携帯・インターネット安全教室」を継続して実施 ②市立全小・中・高・特別支援学校164校の「学校非公式サイト」などの監視活動を継続して実施	①市立全小・中・特別支援学校で「携帯・インターネット安全教室」を実施 ②市立全小・中・高・特別支援学校の「学校非公式サイト」などの監視・削除要請	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	時代に合った対応のため、予定通りとした。	長野委員	b	工程表通りの進捗内容である。
河西委員	b+	インターネットが大人になって身に着けたか、生まれたときから当たり前前に生活にあっただかによって指導者と生徒の意識がまったく違う。気をつけて気をつけて指導していかなければなりません。識者の意見も頂きたいところです。コスト面で評価。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。 急速に多様なメディアが普及していく状況を考えると、課題に記載があるとおり、学校だけでなく保護者など他者が指導できる体制づくりが急務。	廣瀬委員	b	工程表通りの進展
栗原委員	b		福崎委員	b+	企業の社会貢献事業と連携し、教室の無料実施をした点。
須藤委員	b		星野委員	b	目標は概ね達成していますが、保護者への情報提供を更に推進して下さい。
高木委員	b	工程表通り進捗。	町田委員	b	携帯・インターネット安全教室の実施、ネットアドバイザー制度の創設、安全サイトへの監視など、市内全小中学校の実施したと平成23年度の計画を予定どおりの進捗したと評価します。 ※平成23年度予算600万の使用用途に興味があるところ
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第2回委員会：6月1日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c, dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。	4年以内	・平成22年度中に、65歳以上の市民に配布している「シルバーカードを提示することにより、市内の店舗で割引などの優待が受けられる」(仮称)シルバー元気応援ショップ制度」を創設します。 ・平成22年度中に協賛店600店舗で開始し、平成24年度末までに1,000店舗に増やします。	①協賛店数200店舗(累計1,102店舗) ②協賛店紹介冊子の作成・周知 ③事業効果測定方法の検討	①★協賛店数111店舗(累計1,013店舗) ②民間の情報誌に協賛店を掲載し周知 ③事業効果測定方法の検討の実施	C	・平成23年度の協賛店数が目標に達しなかったため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	高齢者が理解されていない事による事ではないか。	長野委員	C	協賛店数で目標を大きく下回ってしまった。
河西委員	b	シルバーのカードもショップ制度もすばらしい案だと思います。「c」の評価は何が行き詰っているのでしょうか。若者じゃなくても「街へ出よう」(ニートエ)です、孤独の回避です。	橋本委員	C	市内・市外の協賛店の状況、利用者数、利用した総額等のデータは？検討の実施までにスピード感がない。
木島委員	C	協賛店数が目標未達。(実績111店/目標200店=56%) ただし、既に現状でプランの目標は達成しており、利用者の評価、および利用実態において利用者が満足できているのであれば、そもそも目標自体が不要であったと考えられる。	廣瀬委員	b-	上方修正した目標には届かなかったが、当初計画の目標は前倒しで達成できた。
栗原委員	C		福崎委員	b-	前期の増加分で工程表より先に進んでいるが、H23年度目標が達成できなかった点。
須藤委員	C	利用状況を計測すべし(ランダム抽出でも可 ex:1,000人当たりの利用率) 利用者のアンケートを実施し、今後の改善につなげるべし。	星野委員	C	協賛店とお互いのメリットを十分に考慮して事業に取り組むべきである。
高木委員	C	協賛店数が111店舗であり、目標を下回ったため。費用の削減に努めた点は良い。どのくらい費用の削減に成功したのか具体的に分かればさらに良いと思う。	町田委員	C+	平成23年度の目標には達成しなかったため「c」評価。 ただし、全体計画としては1,000店舗を超えているため加点要素とする。予算も59万での100店舗追加は費用対効果としても加点評価とする。
高島委員	C	内部評価と同じ理由により進捗度「c」と判断。 協賛店を増やすための努力を望む。	三浦委員	C	目標が未達であった原因の分析として、協賛店にインセンティブが働いているかどうかを見極める必要があるように思う。この制度が、どれくらい高齢者に浸透し、結果として集客力アップにつながるか見えないのではないか。